資料４

新病院整備候補地について（事務局案）

１　整備候補地

（１）整備候補地の条件

県立姫路循環器病センター及び製鉄記念広畑病院は姫路市において長期にわたり存置してきたことから、新病院の整備候補地は、姫路市内において次の条件を踏まえて選定する。

① 中播磨・西播磨圏域の医師確保に対する寄与
　新病院がマグネットホスピタルとして全国から若手医師を集めることが可能な立地とすること。

② 整備期間が長期化する要因が少ないこと
　県立姫路循環器病センターの老朽化・未耐震の状況を踏まえ、新病院の整備を速やかに行うため、工事期間が必要最小限に抑えられることが必要である。

③ 十分な面積の確保
　新病院が提供する高度専門医療が十分に提供できる施設の整備が可能であるとともに、医療技術の高度化や災害医療等への対応、ゆとりある療養環境や患者の利便施設等の充実に必要な面積が確保できること。

④ 教育・研究機能の拡張性
　地域医療に関わる人材の教育研修、若手医師等の研究等への対応が可能であること。

⑤ 大規模災害への対応
　洪水、地震、土砂災害、津波等の大規模災害時に、被害を受ける危険性ができるだけ低く、被災患者や医薬品等の物資の搬送経路が確保できること。

⑥ 公共交通機関等によるアクセス
　中播磨・西播磨圏域の中核的な医療を担う病院として、圏域内の患者の受療機会の公平性、利便性を確保する必要があるため、各地域からの時間、距離の中心であること。

（２）整備候補地

現在の両病院の敷地に加え、地元姫路市から提案のあった３つの候補地を検討した結果、留意事項を付した上で次の整備候補地が最も相応しいと考えた（５つの候補地の評価については別添参照）。

① 所在　姫路市神屋町（キャスティ 21 イベントゾーン（高等教育・研究エリア））
② 現況　更地
③ 面積　約 30,000 ㎡

【選定の理由】

① 中播磨・西播磨圏域の医師確保に対する寄与
　周辺に商業施設など利便施設が多く、また交通の便に優れていることから、医師を初めとする医療従事者を全国から採用しやすい。

② 整備期間が長期化する要因が少ないこと
　現状が更地状態であるため、新病院整備の迅速な実施が可能であり、現病院の診療制限等も不要である。

③ 十分な面積の確保

両病院の許可病床（742 床（姫路循環器：350 床、広畑病院：392 床））での整備が余裕を持って行うことが可能である。

④ 教育・研究機能の拡張性

姫路市が誘致を進める高等教育・研究機関との密接な連携が可能である。

⑤ 大規模災害への対応

他の候補地と同様、兵庫県ＣＧハザードマップ上で災害が想定されている（外堀川氾濫時に 0.5m 未満の浸水想定区域）が、造成等により、病院への影響を抑えることが可能である。

⑥ 公共交通機関等によるアクセス

ＪＲ在来線、新幹線、山陽電車、バスなど公共交通の結節点である姫路駅に近く、中・西播磨圏域の患者の利便性に優れている。

（３）留意事項

① 当該敷地は姫路市が誘致を進める高等教育・研究機関との併設が前提であることから、姫路市と十分に連携を図ること。

② 整備後間もない現製鉄記念広畑病院の建物を活用した播磨南西部地域の医療提供を確保するため、県及び社会医療法人製鉄記念広畑病院の両者において地元姫路市の協力を得ながら、医療機関の誘致を図っていくこと。

その際、まずは、医療圏域内に病床を有する病院の移転誘致に注力し、それが不可能な場合は、圏域外からの誘致を図っていくこと（ただし、圏域外からの誘致の場合は、新たな病床の確保が必要なため、中播磨圏域健康福祉推進協議会等と協議の上進めていく必要がある）。

③ 想定される外来患者数等を踏まえ、立体駐車場や地下駐車場なども活用し必要な駐車台数の確保を図ること。

○新病院整備候補地比較

整備場所については、第４回目の検討委員会での意見、両病院の医師派遣を主として担っている神戸大学としての整備候補地に係る組織決定を踏まえ、前回お示しした候補地について下記のとおり整理した。

＜優先順位の高い項目から順に記載＞

区　　分	案１ 現姫路循環器病センター	案２ 現製鉄記念広畑病院	案３ キャスティ21 イベントゾーン	案４ 現姫路市中央卸売市場	案５ 玉手市有地
①中播磨・西播磨圏域の医師確保に対する寄与	△	△	○	△	△
②整備期間が長期化する要因が少ないこと	×	△	○	×	○
③十分な面積の確保	○	○	○	△	×
④教育・研究機能の拡張性	△	△	○	△	△
⑤大規模災害への対応	△	△	△	△	△
⑥公共交通機関等によるアクセス	△	○	○	○	○